

技術士だより

-(社)日本技術士会九州支部・九州地方技術士センター春季号<第15号>(平成5年3月15日発行)

◇巻頭言

新年を迎えて

原井 束男 (九州支部長・センター会長)

平成5年、癸酉の年頭にあたり、会員の皆様方には、お元気で良い新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

さて、顧りみますと、昨年は、バブル経済の崩壊による不況の嵐が吹き荒れ、暗雲たれこめた一年でありました。又、変化に満ちた一年でもあったと思います。

ご案内のとおり、6月にリオデジャネイロで開かれた「地球サミット」で、世界は、環境と開発に関する憲法とも言うべき「リオ宣言」と、その行動計画である「アジェンダ21」を採択し、わが国からは、本件へのODAを5ヶ年で1兆円と提案するなど、地球環境問題に関する国際活動に大きく弾みがついた年であったといえましょう。又、時期を同じくして、5月12日～5月14日まで、福岡市に於て、「地球環境と地域行動」をメインテーマに「ローマクラブ福岡会議イン九州」が、当支部会員も参加し、盛大に開催され、地球環境の転機を実感した次第でした。

ところで、近未来に目を転じてみると、21世紀ははもうすぐそこ、本年正月元日で、あとわずか2923日までに迫っています。

経済審議会の「2010年委員会」が発表した「2010年の選択」によれば、近未来の日本は、大きな構造変革をとげるだろうと展望しています。たとえば-21世紀の経済成長率2～3%台になる/わが国は世界に前例のない人口減少、高齢化社会を迎える/5人に1人が老人となり、痴呆性老人は200万人に倍増する/年間の総労働時間は現在より300時間以上も減って1700時間になる/労働者の3人に1人が第3次産業に就業する..などと推計されています。

斯様な変貌に対応した産業構造形成に移行する事は必須と判断され、就中、ニーズの多様化と共

に、時の流れに伴ってよりスピーディーに、より横断的な、より重層的な科学技術の向上が求められると思う。従って、技術者集団である本会への期待も大なるものが有ると思われるし、産業社会へ答える責務もあると思慮されます。

「世紀をつぐ」ことは「世代をつぐ」ことでもあり、未来への足掛かりを固めて行く貴重な時期であります。

予てより申し上げて米ました「魅力ある技術士会・活動する技術士会・躍進する技術士会」を目指す九州支部の理念こそ、正に、当を得たものであります。

結びにあたり、とり年に因み、各位のご多幸と大いなる飛翔をご期待申し上げ年頭のご挨拶といたします。

1人でも多くの入会をお勧め下さい

↓ 私の提言 半分にして倍

笠木 直行 (事業委員長・福岡・建設部門)

数年前、地方公共団体職員と技術士との合同セミナーに出席した。セミナーも無事終了し、懇親会は講師を交えて大いに盛り上がったものである。

技術士会員となったメリットの1つとして、このような場を利用して部門の異なる技術士との交流は勿論のこと、部門は同じでも専門を異にする技術士と顔見知りになり交際を深めることは、大いにプラスになるものである。まして交際下手な日本人にとって、外部講師と面識をつくるのには絶好の機会である。県の講師との雑談の中で「日本技術士会なるものがあることを知らなかった」との発言は少なからずショックを受けたものである。

組織強化、活性化、会員増強については、会発足依頼多くの技術士の意見提案がなされているにもかかわらず、一向に進展しないのは如何なる理由によるものか。コップの中の議論に終始して、社会的知名度をあげることがおろそかになっているのではなかろうか。

毎年の合格者のなかで、国、県、市の関係者が少ないのは関心の低さもあろうが、技術士会としてのPR不足も否めないのではなかろうかと思えてならない。これらの機関に対しては、今まで以上にPR活動を推進して、(社)日本技術士会をアピールする必要があると考える。

それにつけても、数は力なりと原井支部長

が言うように、組織の強化、活性化は会員増強からである。

全国の合格者は数万数千名のうち、技術士登録者は26,600名、そのうち技術士会正会員はわずかに4,400名(16%)にすぎない。この程度の組織率では、会としての体をなしていないのではなかろうか。少なくとも半数を上回る入会者が欲しいものである。

技術士会はメリットが少ない、会費が高いと思っている会員も少なくない。せっかく入会してもすぐ退会する人がいると聞く。

会員増強のためにここで思い切った提案をしよう。会員増強の足かせになっている高い年会費を半分にするのである。正会員の年会費24,000円を12,000円に大幅に減額するのである。ちなみに土質工学会は年会費9,600円、官庁の技術者で組織する全建は年会費7,200円で会員が気軽に払える額である。

会費が安いことで加入者を獲得し易くなるであろうから、会員一人が新会員一人を勧誘すれば単純計算で収支は同じで会員は倍になる勘定である。

半分にして倍にすることで会員は増え、組織強化が図れることになる。逐次増強運動を展開して登録者の半数以上の会員を擁する組織が、早く実現することを望むものである。



日本技術士会近況

土居 貞夫 (技術士会理事)

はじめに

平成4年度第5回理事会は1月14日(木) 12:30~16:00 (社)日本技術士会会議室に於て開催されました。

主な審議事項を抜粋し近況報告と致します
審議事項 1. 平成5年度事業計画・収支予算(案)

好況のうちに推移した日本経済もここにきて不況の色濃く、技術士の業務をとりまく環境も次第に厳しさを増している。このような背景認識にたつて、平成5年度の事業運営に当っては、その基本的かつ長期の方針を年来の次の事項と定める。第一 会員の増強 第二 技術士の能力の向上 第三 技術士の業域の拡充強化 これらの基本方針の下に 第一 技術士制度の普及 第二 技術士業務の開拓 第三 技術士のパーソナルデータの整備 第四 会員技術士の本会活動への参加促進 を当面の主要課題として、前年度の成果を十分に活かしつつ、事業の総合的遂行に積極的に取り組んでいくこととする。

また、指定試験機関及び指定登録機関としての本会事業については、技術士試験の広報に努めるとともに、最高級技術者の国家制度に関する事務にふさわしく、迅速、正確、公正を旨として、事業の実施に当ることとする。以下詳細を(案)として保坂専務より口述され審議の結果、平成5年度収支予算書(案)とともに同時審議され承認された。

審議事項 2. 千葉県技術士会の位置付けについて。

社団法人日本技術士会会員によって、平成4年10月千葉県技術士会が設立された。技術士の活性化のため、小区分単位の地域活動の積極的展開は不可欠であり、県単位での会員の組織化は会としても望ましいことである。

関東圏以外の地域にあっては既に、地域支部が設立されており、7支部を中心に活発な活動が展開されている。

一方、関東圏には未だ支部がなく、長期的観点に立って、数ブロックに分けた支部を設立していくことは、会員の希望でもあり、順次小単位の組織化を支援育成していくことは、

重要なことである。

ただ、関東圏のほとんどが未組織の現段階で、一部地域のみ組織化をもって、ただちに、支部に位置付けることは会全体の発展を図るうえから、必ずしも妥当であるとはいえない。

したがって当面、関東一円が概ね組織化されるまでの過渡的期間においては、千葉県技術士会は、理事会で設立承認された地域団体として位置付け、名称は社団法人日本技術士会千葉県技術士会と称することとする。以上の様に位置がなされています。

審議事項 3. 平成5年度役員選挙管理要項
上記議事は審議され承認された。以下要項を記す。

◎役員選挙

- (1) 平成5年度において選挙すべき役員の数は、理事30名、監事3名とする。ただし各支部及び部会より推薦のあった理事及び監事のそれぞれの総数が上の数に満たないときはその数をもって平成5年度において選挙すべき役員の数とする。
- (2) 役員選挙の事務については、事務局がこれを行う。
- (3) 事務局は、役員選挙の投票用紙を5月17日(月)までに各会員に到着するよう発送する。
- (4) 細則第8章第40条の役員の投票の締切日は、6月15日(火)とし、同日12時までに事務局に到着したものを有効とする。
- (5) 投票結果の開票及び集計を6月15日(火)13時から行う。
- (6) 次期会長・副会長等を予め内定するため、次期役員による会議を6月23日(水)に行う。

◎役員選挙管理委員の選出

- (1) 支部長及び部会長は、当該支部及び部会の中からそれぞれ役員選挙管理委員1名を選出し、3月31日(水)までに事務局長に文書をもって通知する。
- (2) 役員選挙管理委員は、役員選挙管理

.....

(技術士会近況 つづき)

委員会を組織して、厳正に選挙を管理しなければならない。

- (3) 第1回の役員選挙管理委員会を4月15日(木)に招集し、委員長を選出する。
- (4) 役員選挙管理委員会は、役員候補数の確認及び投票結果の開票・集計を行う。

◎役員候補者の選出

- (1) 細則第8章第36条第1、2、4、5の各項の規定に基づいて、支部長及び部会長は、それぞれ役員候補者を、3月31日(水)までに事務局長に文書をもって通知する。
- (2) 役員候補者の推薦は、次の支部及び部会が行うものとする。
北海道、東北、北陸、中部、近畿、中・四国、九州の7支部
機械、船舶(航空・宇宙部門を含む)、電気・電子、化学、繊維、金属、資源工学、建設、水道、衛生工学、農業、生物工学、林業、水産、経営工学、情報処理、応用理学の16部会

➤ 注) 本案の日程については目安として提示したものであり、役員選挙の日程は、役員選挙管理委員会で定めるものである。

- 審議事項 4. 理事選挙方法の一部改正について(案)
- 審議事項 5. 技術士表彰推薦作成に関する提案
- 審議事項 6. 技術者資格の国際整合性に対して日本技術士会が主体性をもつための措置
- 4～6. 審議する(案)は未承認次回へ
- 報告事項 6. 会員・準会員・賛助会員の会員数

本部事務局より平成4年12月31日(木)現在の会員数は、次の通り報告

技術士 会員	4 3 8 7名
準会員A	8 4名
準会員B	7 2 5名
賛助会員	2 2 5名
	以上

平成4年度 第3回支部長会議について

日時 平成5年3月4日 15:00～17:00
場所 大分県湯布院町ゆふいん山水館
出席予定者 上田稔会長外13名
司会 原井東男九州支部長

議 題

<佐々木北海道支部長>

- 1. 技術士会館の設立について
- 2. 会員増強対策(特に企業内技術士について)

<杉江東北支部長>

- 1. 会員の協力を必要とする事業は、その計画を迅速に会員に周知するように願いたい。(例えばこの度の「技術士会館」建設に関するアンケート等)

<中山北陸支部長>

- 1. 本部理事推薦・支部役員を選出等の方法

- を教示願いたい。
- 2. 支部での試験PRの方法について教示願いたい。
- 3. 県支部設立の動向について支部長の考え方をお聞きしたい。

<川浦中部支部長>

- 1. 業務斡旋について

<森川近畿支部長>

- 1. 本部理事選出の基準の見直し
- 2. 本部よりの還付金の基準の見直し

<本多中・四国支部長>

- 1. 技術士会館の設立について、今日までの経緯、調査・計画概要についてお聞きしたい。

<原井九州支部長>

- 1. 技術士会館の設立について
 - 2. 次回支部長会議担当支部の決定について
- 以上

.....

技術士会九州支部・九州地方技術士センター



行学会合などの報告

(支部・センター 行事会合報告 つづき)

第2回常任幹事会

日時 平成5年1月23日(土)13:00~16:00

場所 博多第一ホテル

出席 支部長外14名

協議事項

1. 会員増強及び賛助会員、賛助広告のお願い
平成5年3月31日迄
2. 技術士会館設立の為の拠金について
今後慎重に検討を要する
3. PR用のパンフレットについて
現在活性化委員会にて作成中
4. 常任委員長の行事報告
5. 地区代表幹事の行事報告
 1. 福岡2/16役員会 (役員改選外)
2/26YCE福岡1周年記念
講演会及び懇親パーティ

ノ 北九州毎月第3土曜月例会

ハ 熊本6月地区総会

ニ 大分5月地区総会

ホ 宮崎会員の動向及びコンサルタント業務について

ヘ 鹿児島1/30年始会

5月地区総会

6. 本部支部センター役員改選について

3月下旬役員会議開催の予定

平成5年度第二次試験申込書配布説明会

福岡 3/6 福岡商工会議所

北九州 3/13 戸畑中央公民館

佐賀 3/6 ビジネスホテル鍋島

長崎 3/13 県勤労福祉会館

熊本 3/13 熊本技術センター

大分 3/7 大分市コンパルホール

宮崎 3/6 土質試験センター

鹿児島 3/6 県建設コンサルタンツ協会

☞ 支部センター委員会部会だより

支部、センターの行事日程

- (イ) 4月10日(土) 会計監査
(博多第一ホテル)
- (ロ) 4月24日(土) 合同役員会
(福岡商工会議所)
- (ハ) 5月29日(土) 定時総会
(福岡商工会議所)

ノ 受験申込者に対す

る合格率 9.4% 9.9%

筆記試験受験者に

対する合格率 16.4% 16.8%

(試験地別) 受験申込者数 1,302名

福岡 合格者数 90名

対申込者合格率 6.9%

受験者数 642名

対受験者合格率 14%

◇ 総務委員会 (重富委員長)

1. 平成5年1月23日於博多第一ホテル
“技術士だより”15号編集委員会
2. 会員増強について (第二次試験合格者の加入)
3. 賛助会員増強広告について
期限平成5年3月31日迄

2. 平成5年度技術士試験実施日

第二次試験日 8/25 8/26 九州大学工学部

第一次試験日 10/10 九州大学工学部

◇ 事業委員会 (笠木委員長)

1. 第一次、第二次試験合格者研修及び祝賀会
会員研修及び祝賀会

平成5年2月27日 福岡商工会議所
13:00~19:00

会員研修講師

4. 21世紀を目指す宇宙開発

技術士(金属)宇宙センター次長

菊山紀彦先生

◇ 試験委員会 (政野委員長)

1. 平成4年度技術士第二次試験結果について

区分	4年度	前年度
受験申込者	17,517名	14,852名
筆記試験受験者数	10,047	8,752
筆記試験合格者数	1,785	1,604
口頭試験受験者数	1,783	1,603
口頭試験合格者数	1,643	1,469

.....
(支部センター委員会だより つづき)

- ロ. 台風-自然と風土-及び外洋における流出油の経路考察
技術士(応用理学) 沖縄技術士会会長
伊志嶺安進先生
- 2. 韓国トンネル技術協会(大韓火薬技術学会)の建設現場の見学研修予定
3/7~3/13 日韓トンネル外6ヶ所

◇センター受験対策委員会
(町田委員長)

- 平成5年度第二次受験対策総合講座
- 第一回講座 4月17日(土)
 - 第二回講座 6月12日(土)
6月13日(日) 模擬試験
 - 第三回講座 7月24日(土)
会場 福岡商工会議所
先着70名で打ち切ります。
 - 第四回講座 11月20日(土) 口頭試験対策

◇センター研修委員会(矢野委員長)
事業委員会と共催で実施

◇センター活性化委員会
(斎藤委員長)

- 1. 第2回活性化委員会
日時 平成4年11月28日(土) 14:00~18:00
場所 長崎市セントヒル長崎

➤出席 斎藤委員長外7名

- イ. 経過報告
 - ロ. 技術抄録について
作製部数1500部程度
 - ハ. 技術士紹介パンフレットについて
支部センター幹事会に提案検討する
- 2. 第3回委員会は3月13日(土)
福岡市で開催予定

.....
◇部会報告

- 1. 第6部会技術研修見学会
日時(A)平成5年1月22日(金)13:30~15:30
参加者8名
(B)平成5年2月12日(金)13:30~15:30
参加者5名
場所: 日産自動車(株)九州工場
(12ページ, 行事レポート参照)
 - 2. 九州支部全6部会共催による技術研修講演会
日時: 平成5年3月6日(土)15:00~18:00
場所: 福岡商工会議所
講演会: 15:00~17:00
 - イ. 「日米技術コンサルタント比較」
講師: 熊本大学教授中島重旗先生
(建設・水道)
 - ロ. 「私の人生」
講師: 副支部長水上信照先生(建設)
- (支部・センター委員会部会だよりおわり)

祝!! 技術士第一次試験合格の方々

◎ 平成4年度技術士第一次試験合格者(関係分)

平成4年12月21日発表

(部門)	(出身地)	(氏名)	(部門)	(出身地)	(氏名)
機械	福岡	末松 正典	建設	福岡	中川 清史
"	山口	泉 信也	"	"	冨成 英二
"	福岡	末吉 敏治	"	宮崎	梅ヶ谷 浩
電気・電子	"	田中 雄二	"	"	浜田 伸一
化学	"	小林 和彦	"	鹿児島	高畦 博
建設	大分	工藤 明広	"	福岡	勝部 克美
"	熊本	竹田 尚史	"	"	曾根 好則
"	鹿児島	山田 修一	衛生工学	"	因 治彦
"	大分	亀井 敏和	"	"	村高 秀人
"	福岡	安在 貴	"	"	石田 裕一
"	山口	板垣 龍夫	"	"	杉野 光
"	福岡	藤木 明	"	"	山口 正高
"	"	牛尾 忠信	"	宮崎	木下 克寿
"	"	山波 博明	"	福岡	山下 博幸
"	熊本	島田 正秀	"	"	林 英男
"	鹿児島	岩本 一政	"	宮崎	牟田口 幸生
"	熊本	水上 文藝	"	福岡	平川 信彦
"	福岡	愛敬 圭二	"	"	黒木 正勝
"	大分	大塚 哲哉	農業	"	下村 功
"	佐賀	洲上 幸康	"	"	中島 中
"	宮崎	松永 義一	"	"	林 稔人
"	福岡	吉田 恵	"	"	首藤 美満
"	"	平井 健一	応用理学	"	三谷由加里
"	"	友池 隆文	"	鹿児島	永野由美子
"	鹿児島	道添 兼弘	生物工学	福岡	岩田 真人
"	福岡	高岡 明			

合計 51名

祝!! 技術士第二次試験合格の方々

◎ 平成4年度技術士第二次試験合格者(関係分)

平成5年2月5日発表

(部門)	(出身地)	(氏名)	(部門)	(出身地)	(氏名)
機械	福岡	後藤 博文	建設	福岡	田代 利明
電気・電子	"	中村 一	"	"	藤田 泰
金属	"	芳賀 道徳	"	"	井上 純一
"	"	大八木 義隆	"	熊本	平嶋 孝
"	"	永吉 英昭	"	福岡	山越 実
"	"	和田 洋二	"	沖繩	平良 一男
資源工学	鹿児島	竹谷 恒三	"	福岡	堤 八恵子
建設	福岡	松本 敏八	"	"	村田 義郎
"	"	重信 純	"	"	石本 俊亮
"	"	中村 哲也	"	"	岩元 賢
"	"	久保川 孝俊	"	"	岩瀬 央樹
"	宮崎	伊藤 明	"	"	古賀 淳一
"	福岡	武林 和彦			

<次ページにつづく>

平成4年度技術士第二次試験合格者			つづき		
(部門)	(出身地)	(氏名)	(部門)	(出身地)	(氏名)
建設	宮崎	岡田 豊	水道	大分	日野 健次
"	長崎	高木 辰治	"	福岡	林 正治
"	福岡	上村 俊英	"	"	沢田 勝一
"	長崎	三重野 秀信	"	"	佐々木 安治
"	福岡	大賀 成元	"	"	川田 博見
"	"	森 二郎	"	"	高井 敦紀
"	"	竹中 幸生	衛生工学	"	竹内 良治
"	"	若槻 良行	"	宮崎	岩切 重人
"	鹿児島	福島 正三	"	福岡	岩永 宏平
"	福岡	松尾 眞治	農業	佐賀	大宅 公一郎
"	鹿児島	前田 一彦	"	福岡	河野 裕俊
"	福岡	新 英司	"	"	池田 豊治
"	熊本	森 克彦	"	熊本	山下 隆司
"	福岡	石橋 弘志	"	福岡	大武 守
"	"	坂井 繁雄	"	佐賀	石田 和人
"	鹿児島	福田 寛治	"	鹿児島	北川 博美
"	福岡	小倉 浩一郎	"	福岡	山口 正徳
"	"	酒井 良	林業	"	竹下 敬司
"	長崎	平野 巖	水産	宮崎	赤崎 正人
"	福岡	橋村 潔	情報処理	福岡	野村 利則
"	"	矢ヶ部 輝明	応用理学	"	久保田 裕
"	"	松山 泰治	"	"	鈴木 孝雄
水道	熊本	小島 義博	"	"	松岡 正章
"	福岡	會田 義彦	"	"	井出 修
"	"	黒田 庸一	"	長崎	山田好之助
"	"	原 茂恭			
"	"	武部 茂			
"	宮崎	芳川 孝生			
			合計 78名		
			福岡会場90名(12名は九州以外)		

❁ 声の広場 地区活性化だより -12- 熊本地区

プロジェクトチーム「熊本技術センター」の自主事業と委託事業

小島 義博 (熊本・衛生工学, 建設)

一昨年末発行の「技術士だより」の巻頭言「各県にプロジェクトチーム設立を」(青山次則一 副支部長記)の中で、熊本県技術士会が設立した、(社)日本技術士会の地方プロジェクトチームとしての熊本技術センターについてその設立趣旨・特徴及び事業等の概要の説明がなされた。また昨年6月発行の当欄では熊本技術センターの自主研究「九州国際ハブ空港一有明建設構想」の一部の紹介がなされた。そのため熊本技術センターの存在については読者の皆さんには知って頂いていること、

と存じますが、ここでは改めてセンター事業の実績と現状について紹介させていただきます。

(構成) 正会員17名, 支援会員15社

(運営) 会費及び事業受託費他(平成3年度事業費約6,000万円)
常設事務所(賃借)、専任事務員

(事業内容) 次ページの表のとおり

<次ページにつづく>

自主事業	①自主研究・自主調査	(水環境)都市型水害、雨水制御、雨水再利用、地下水保全 (衛生環境)廃棄物処理、中小規模下水道 (地域計画)熊本市南部・西部田園都市構想、環有明海開発地 (交通)九州国際空港、熊本都市圏の交通体系・渋滞改善他 (地域資源)地盤情報データベース化、火山灰利用 (地域エネルギー)波力・風力発電、中水道
	②市民シンポジウム開催	特に水をテーマに年1回程度開催。都市型水害、ウォーターフロントとまちづくり等について 創立後、既に3回実施済。
	③情報誌発行	上記自主研究・自主調査の成果発表の場及び市民シンポジウムの議事録として年2回発行。1冊行当たり約百ページ。8号発行済。
受託事業	①環境アセスメント	熊本県及び大分県における各種開発事業に伴う実施環境アセスメント業務を民間事業者より受託。受託件数7件。
	②調査・計画	水資源開発のための水需給計画策定業務及び熊本新港ターミナルビル建設・周辺整備の基本計画策定業務を熊本県より2件受託。

上記の自主事業はセンター会員の手弁当が基本となっているが、必要最小限の経費については受託事業の受託費のうち指導・助言費の一部を自主調査・研究費等事業費に当てている。そのため受託事業の多少により自主事業のうち特に自主研究の取組みに制限を受けるので、受託事業に積極的に取組む必要がある。受託事業の実務については会員又は会員の属する会社で専門分野を分担し受注するため共存共生の相乗効果も図れ、技術士にとっては合理的なシステムと言える。

現在取組んでいる自主研究のうち主なものの一つに「地盤データベース構築」が挙げられる。本研究は熊本大学地域共同研究センター内に研究場所を置き、当センターと熊本大学が共同研究を続けているものである。これ

まで点のデータとしてのみ利用されていた地盤情報をデータベース化し、地下水情報と併せて地区情報と一体化した地下情報の蓄積と検索システムを構築し、都市計画や環境設計等に必要な情報を迅速に提供することを目的とした研究である。今春をもってシステム構築はほぼ完了し、今後は公的機関等より提供のあった追加地盤データの入力作業を進め、精度の高いデータ提供を目指している。

こうした自主研究を通して得た地域の情報をもとに、行政と企業や地域住民の人々とのコーディネーターとして、地域に密着した提言・提案を行って、これからの新しい地域づくりと地域の発展に貢献したいと願っています。

以上

<声の広場 おわり>

行事レポート

◇ YCE福岡1周年記念講演会開催！

辻 幸英（福岡・建設）

平成5年2月20日(土)博多エクセル東急ホテルにおいて、YCE福岡1周年記念講演会ならびに懇親パーティが開催されました。

YCEとはYoung Consulting Engineersの略称で、平成4年1月に若手技術士の有志によって発足した会です。会員は昭和20年以降に生まれた(旧)日本技術士会会員または九州地方技術士センター会員のうち福岡地区で活躍する技術士約60名で構成されています。

YCE福岡では、人間と人間が会って、

それぞれの得意分野について「知恵」を出し合うことにより、まったく予想もなかったすばらしい「ひらめき」を生み出す「人間交流」や、「ひらめき」を個人だけでなく仲間と励まし合って「地域社会」に貢献することを目的としています。これまで2ヵ月に1回の定例会で、人間交流・最近の話題についての意見交換を行ってまいりました。

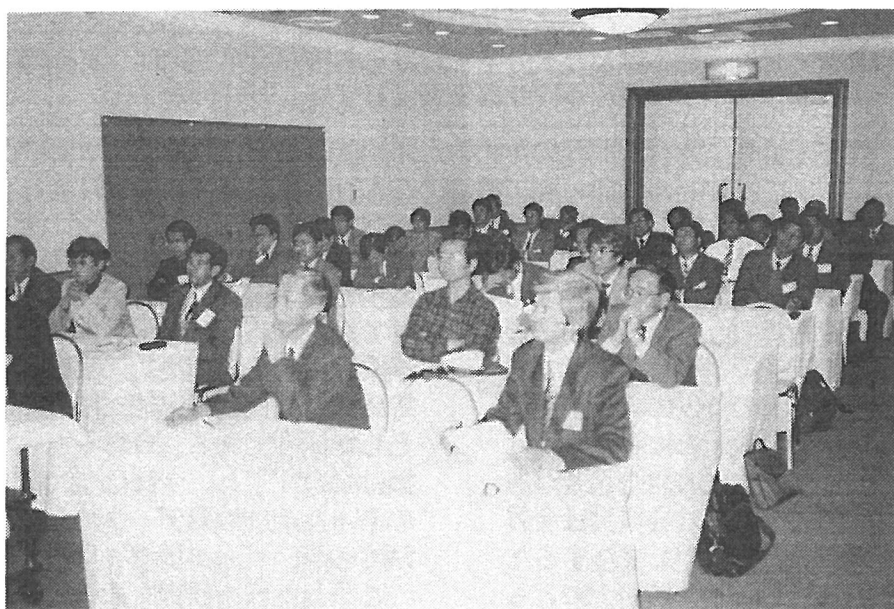
今回、YCE福岡発足の1周年を記念して講演会を企画いたしました。 <つづく>

＜行事レポート つづき＞

講師は、ご活躍中の、(有)クボタエンジニアリング社長の久保田信一氏（建設・農業）、パシフィックコンサルタンツ(株)九州支社長の内藤聖一氏（建設）、九州環境技術研究所長の斎藤清美氏（衛生工学）、(株)佐藤組最高顧問の佐藤幸甫氏（建設）、重富技術士事務所所長の重富秀雄氏（経営工学）の5人の先輩技術士にお願いしました。独立技術士・企業内技術士というそれぞれの立場から、貴重な

経験やアドバイスを講演していただき、講演後には、熱の入った質疑応答が行われました。また、懇親パーティでは、来賓の水上信昭氏や、笠木直行氏を交えて、参加した約40人の会員がそれぞれ1分間の持ち時間をフルに使って自己アピールし交流を深めました。中洲に近い場所柄、懇親会は深夜まで続いた模様です。

以上



行事レポート

◇ 日産自動車(株)九州工場を見学して

芳賀 三千億（第6部会長・長崎・経営工学）

去る1月22日と2月12日の両日に分かれて第6部会と他部会合同の見学会が開催された。

見学先は日産九州工場で原井支部長、水上副支部長、土居前支部長ほか各部会員、総勢13名（延人数）は2班に分かれて、両班とも13時にJR日豊本線荏田駅に集合、現地に向かった。

九州工場は周防灘を一望できる臨海地に立地し、約220万 m^2 の広大な敷地に建設された同社最大規模の工場である。

先ず光永ゲストホール長より工場概要の説明があったが、概要次のとおり。

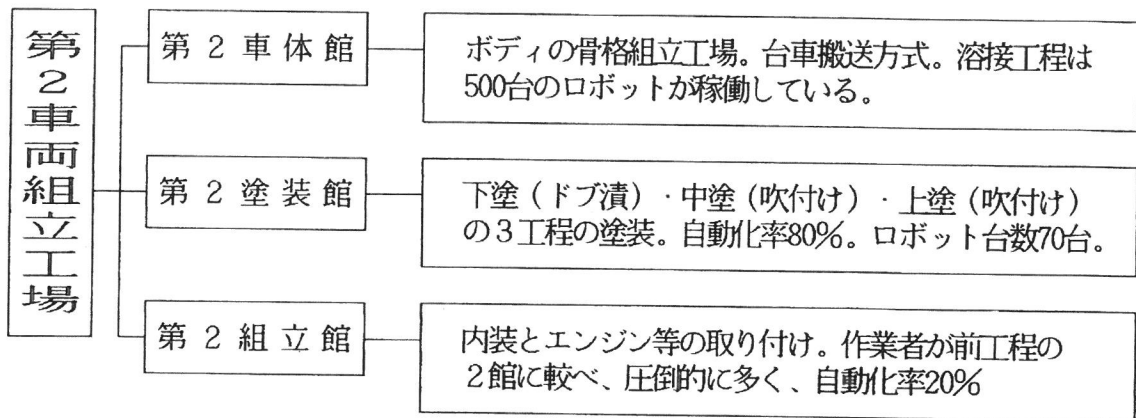
- 生産開始 S51年12月
- 生産累計 400万台

- 従業員数 約6,000名
- 月産能力 5万台（車両）

見学工場は平成4年4月に完成した第2車両組立工場で、案内は前班はガイド嬢、後班は光永氏が担当された。

新工場は欧米の自動車メーカーに倣って、モジュール設計・生産方式を採用しているのかと思っていたが、案に相違してどんな車種にも対応可能なFMS方式を導入していた。これも社内事情のしからしめるところであろう。

第2車両組立工場の概要は次のとおり、
<次ページにつづく>



なお、4種類8機種が生産が可能なるも現在はバルサーのみ生産し、操業度は60%で景気回復待ちの状態である。

見学は15時40分に終了、有意義な1日を終え、荻田駅にて解散した。参加者の内訳は右表のとおりである。

以上

部 会	参加数	部 会	参加数
経営工学	5名(延)	電気電子	1名
建設	3名	衛生工学	1名
機械	2名	事務局長	1名

講演詳報 コンクリート工学の進歩と近年の話題

1,992年12月4日 日本技術士会九州支部・九州地方技術士センターの共催で開催されたセミナーでの九州工業大学教授 工学博士 渡辺 明氏のご講演の詳報である。

1. 人工岩石の誕生と複合材料としての出発
 ポルトランドセメントの発明は、1824年。イギリス人J. アスプジンが「人造石製造法の改良」という標題で特許を取得したことによる。日本でのセメントの製造開始は1875年である。新しく誕生したポルトランドセメントで造ったモルタルコンクリートは、実は圧縮強度に対して引張強度の非常に小さい、つまり「脆度（ぜいど）係数」の大きい代物で、曲げ材には不向きなため、その使用範囲は極度に限られるものであった。

しかし全く幸運なことに、「鉄筋とコンピを組む」という発想が生まれた。引張りに弱いコンクリートを引張りに強い鉄筋が助け、酸に弱い鉄筋を強アルカリ性のコンクリートが保護するということで、助け合いながら外力に抵抗することができることとなり、複合材料として出発することとなった。鉄筋コンクリートが明確に出現したのは、1867年である。コンクリートのひびわれは、構造部材の耐久性を損なうが、鉄筋の代わりに高張力鋼

線を使ったプレストレスコンクリートの出現によって「絶対にひびわれの出ないコンクリート」が実現した。

2. 合成構造としての発展、混和剤の登場
 部材引張部に引張りに強い鋼部材を配し、部材圧縮部には圧縮に強いコンクリートを配し、しかもコンクリート打設時に鋼部材を足場代わりに利用することによって、非常に安全で迅速な施工が達成される。断面は経済的になるので、多方面で活用されている（PC合成床版工法）。

混和剤としては、コンクリート中に微細な空気を連行させるAE剤が先ず登場した。界面活性作用でセメント粒子を分散させて減水効果を発揮する減水剤のほか促進剤、遅延剤、防錆剤その他数多くの混和剤の開発、利用によって、多種多様なコンクリートの製造が可能となった。その後、高性能減水剤、流動化剤、水中不分離剤なども登場してきた。

<次ページにつづく>

＜講演詳報 つづき＞

3. プレキャスト化、迫られる一層の近代化年を追うごとに深刻化する労務事情に対処する方向として、構造物をプレキャスト化する方法が推進されている。整備された製作ヤード、ドライドックなどでプレキャスト部材を造り、それを現場まで搬送して結合し組み立てる方式にすることにより、現場作業が省力化され、迅速化される。(東京湾沈埋トンネル・横浜ベイブリッジの橋脚施工など)

コンクリート工事は土木の中でもとくにスマートさに欠け、肉体労働の多い分野である。作業員の高齢化、払底の現実を直視し、足場、型枠、鉄筋部門を近代化しなければならない。プレキャスト化、ロボット化、メカトロ化等の推進、すなわち一層の近代化が急務となっている。

4. 設計耐用年の論議を

過ぐる新潟地震のとき、昭和大橋の落橋にからんで、土木技術者はいわれの無い非難を浴びた。200年に一度、発生するかしないかという激しい地震によって被害を受けたとしても、それは、むしろ当然なことであった筈である。調査によると、構造物は機能改善のため、それが寿命破壊する前に敢えて取り壊す「機能破壊」の事例が圧倒的に多い。

「機能破壊」が先行している現実に立脚して、そのサイクルに合わせて設計耐用年を決めるなどいかがであろうか。ともかく、コンクリート構造物は決して不滅ではないことを、

一般に認識させ、土木技術者の責任範囲は、あくまでも「設計荷重」「設計耐用年」であることを堂々と主張できるようにしなければならない。

以上は「土木構造物とコンクリート—総論—」と題されたテキストに基づいてのご講演の要旨である。このあと約50枚にのぼるスライドが紹介された。「悪魔の橋—アーチ理論を活用した古代ローマ時代の水道橋(スペイン・セビリヤ)」「高さ553mのカナダのTV塔」「高さ100mのハイピアによる連続ラーメン橋」「我が国最長の中央スパン(250m)を誇る斜長橋—呼子大橋」「東洋一の中央スパン(235m)を誇るコンクリートアーチ橋—別府明礬大橋」「主塔を傾斜させた片斜長橋—アラミージョ橋(スペイン・セビリヤ)」等等など、息を呑むばかりの景観、新鮮さであった。

「現今のコンクリート構造物設計の要点」は、1. しなう〜ゆれる 2. かわず〜とおす ということである。つまり、「柳に風折れ無し」という古い例えを、新しい構造物設計に生かすことである」と締め括られて1時間30分にわたったご講演が終わった。

「固いコンクリート」についての歴史、現在の問題点を柔らかい表現・例え・用語で理解させて戴くことができた実に有意義な講演であった。

(重富 秀雄—総務委員長・福岡・経営工学)



会員ニュース



★九州地方技術士センター 正会員、福岡地区・建設部門 白水伊久男先生が平成4年12月28日逝去されました。

★(株)日本技術士会 会員、九州地方技術士センター 正会員、第1部会長、北九州地区・機械部門 田島積先生が平成5年2月23日逝去されました。
謹んで おふた方のご冥福をお祈りいたします。

☆(株)日本技術士会(九州支部)入会

(地区)	(区)	(氏名)	(技術部門)	(連絡先)
福岡	正領	酒井 哲夫	建設	〒813 福岡市東区香住丘6-29-10
"	"	長田 晴道	"	〒811-31 福岡県粕屋郡古賀町舞の里1-19-1-4-102
大分	"	二宮 和生	水道	〒874 大分県別府市石垣東10-8-6
佐賀	"	久保 末吉	建設	〒847-12 佐賀県東松浦郡北波多村徳須恵1417-1

☆九州地方技術士センター入会

(地区)	(区)	(氏名)	(技術部門)	(連絡先)
福岡	正領	大野重三郎	建設	〒818-01 福岡県太宰府市青山1-4-10
"	"	富重 定	水道	〒835 福岡県三池郡高田町下楠田1436
鹿児島	"	古賀 義徳	建設	〒811-34 福岡県宗像市日の里9-29-12
福岡	"	重信 純	"	〒816 福岡県大野城市大池2-7-11
熊本	"	平嶋 孝	"	〒862 熊本市戸島町3058-20
福岡	"	原 茂恭	"	〒815 福岡市南区塩原1-12-23
長崎	"	山田好之助	応用理学	〒857-01 長崎県佐世保市野中町356-23
"	"	高木 辰治	建設	〒857-03 長崎県北松浦郡佐々町沖田免1-5
宮崎	"	芳川 孝生	水道	〒880 宮崎市西池町12-62
北九州	"	竹中 幸生	建設	〒802 北九州市小倉北区足立2-7-40
福岡	"	中村 一	電気・電子	〒811-01 福岡県粕屋郡新宮町原上1749-18
"	"	武林 和彦	建設	〒815 福岡市南区市崎2-3-5-142
"	"	佐々木安治	水道	〒819-16 福岡県糸島郡二丈町大字深江1270
"	"	田代 利明	建設	〒810 福岡市中央区平和3-18-12-302
北九州	"	久保田 裕	応用理学	〒803 北九州市小倉北区大手町10-50-615
福岡	"	松本 敏八	建設	〒818 福岡県筑紫野市大字塔原21-7
"	"	福田 寛治	"	〒893 鹿児島県鹿屋市新栄町37-9
佐賀	鞆	淵上 幸康	"	〒849-05 佐賀県杵島郡江北町大字八町1338
福岡	"	末吉 敏治	機械	〒811-34 福岡県宗像市日の里5-1-28-405
"	"	友池 隆文	建設	〒819 福岡市西区泉3-4-18
鹿児島	"	山田 修一	"	〒890 鹿児島市下伊敷町621-2谷山ビル302
佐賀	正領	大宅公一郎	農業	〒849 佐賀市鍋島2-2-19
福岡	鞆	富成 英二	建設	〒816 福岡県春日市上白水336-17
"	"	黒木 正勝	衛生工学	〒816 福岡市博多区板付3-22-402
北九州	"	牛尾 忠信	建設	〒807 福岡県遠賀郡水巻町吉田1998-11
"	正領	大八木義隆	金属	〒811-41 福岡県宗像市自由ヶ丘9-4-14
"	"	竹内 良治	水道・衛生工学	〒807 北九州市八幡西区春日台6-6-26
"	"	野村 利則	情報処理	〒800-03 福岡県京都郡苅田町尾倉3804-1
福岡	"	酒井 良	建設	〒811-21 福岡県粕屋郡宇美町大字宇美4959-8
長崎	"	坂井 繁雄	"	〒816 福岡市南区高木2-7-4-304号
福岡	"	森 二郎	"	〒814 福岡市早良区原1-41-24-205
熊本	"	森 克彦	"	〒862 熊本市新大江2-21-1 有馬ビル402
北九州	鞆	田中 雄二	電気・電子	〒828 福岡県豊前市大字三毛門367

☆九州地方技術士センター退会

(地区)	(区)	(氏名)	(技術部門)	(地区)	(区)	(氏名)	(技術部門)
宮崎	正領	土井 富雄	建設	中四国	正領	平田 久	建設
"	"	久寿米木一裕	農業	福岡	"	白水伊久男	"
福岡	鞆	佐藤 薫夫	機械				

◎(社)日本技術士会九州支部・九州地方技術士センター 地区別会員数(平成5年2月20日現在)

地区	九州支部			地区	九州地方技術士センター		
	会員	正会員	準会員		会員	正会員	準会員
福岡	121	245	36	大分	21	22	8
北九州	34	60	7	宮崎	11	26	8
佐賀	6	14	9	鹿児島	14	39	14
長崎	15	29	7	中四国	—	5	18
熊本	22	23	17	合計	244	463	124

(注) 九州支部準会員は含まない。

☆会員勤務先(住所)および連絡先変更

1. 前田剛志, 辻幸英, 内藤堅一(建設)
勤務先 〒819 福岡市西区姪浜町33の1
パソコン福岡ビル
パシフィックコンサルタンツ(株)九州支社
TEL (092)885-5005
2. 中村 修(建設)
連絡先 〒816 春日市泉4丁目106
3. 田代 末信(建設)
連絡先 〒810 福岡市中央区荒戸3丁目
5番51-501号
4. 今村 晋作(林業)
勤務先 〒814 福岡市城南区茶山4-9-8
(前)長友測量設計 福岡支店
TEL (092)865-5770
5. 岡田 貢(建設)
連絡先 〒753-02 山口市大字内御堀777-266

—受付順、敬称略—<会員ニュースおわり>

★投稿を募る★

技術研究論文・技術士の主張・賛助会員会社の紹介など、技術的なことは勿論会員の受賞などのニュースもお願いします。積極的な皆さんの投稿をお待ちしております。(200字詰め原稿用紙2~3枚程度を目安に願います。支部事務局宛)

✍ 編集後言己 🖨

- ・春は曙。相撲界も国際化時代の幕開けか!
- ・技術士会も新進気鋭の活躍があつてこそ、活性化、国際化も図られると思うのだが。
- ・新たに合格し、会員になられた方々に期待するところ大。老兵のひとりごと? (小)

◇“会誌”技術士”最近号の主要目次

- ☆'93 1月号
- ・私の技術士業務
地方の農業分野・活動に生きがい / 鈴木 多賀
 - ・研修のページ
免震設計の橋梁への適用 / 林 亜紀夫
設備投資の意味するもの / 清宮 繁
- ☆2月号
- ・平成4年度技術士第一次試験合格者発表
 - ・提言 技術士と技術士会 / 金沢 敬
技術士会に対する独断的考察 / 堀田 忠
 - ・私の技術士業務
自己完成への途 / 山田 秀雄
 - ・研修のページ
環境破壊と保全対策 / 高島 清

- ☆3月号
- ・平成4年度技術士第二次試験合格者発表
 - ・私の技術士業務
建設専門技術士の活性化 / 大島 久
 - ・研修のページ
コージェネレーション / 苗崎 禎顕

発行：(社)日本技術士会・九州支部
九州地方技術士センター
〒810 福岡市中央区大名1丁目
12-61 新天ビル402
☎(092)771-9534
編集：九州支部・総務委員会